

而無沙は申しあげて居り向来由に長つ自夏も萬も過ぎ去り紅菱の根が訪
れて有り物も其の自夏中西の家が皆之程おなくなりそのお通いからやいませ
仰向い申しあげ物も此の度主の帰来にうきまては仰着程始め望程の格別
なる仰意に依りまして一人一人も早く帰思させて戴きませぬや唯々あかしく
現在の私共、嬉い日事にて表するには出来ませぬ外と云つて仰礼の言葉も
申しあげませぬ好か感謝の奇持で一杯でございます

早くお帰り致さねばなりませぬのについ、多忙においませぬ心にもない無
れども宜ねまして誠に申し訳しなく存じて居り物事

去る九月七日朝八時東京羽田空港に二重の張りに二重の奇存の主人を迎へ
て居るが私この翌日には女の目のおやさし、望程のお通い旅館で始めてお逢いませぬ

望程のお通いお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
承い滞米中 所かとお心に掛けて戴き一方なぬ仰世話程成りまして

今日こうして二人の子供の中に再会を嬉ぶ事のお逢いませぬのも一重に
仰意程や望程の温かい仰計の賜と深く感謝の誠を捧げて居ります

私も主の帰来と同時に務めの方もめまして今は二人の子供の好きごと
して又主人の上につきましては大切をお仕事を拝承し帰りました其の

貴仕の重大なご痛感致し、より好ま成果を願いつゝ意義あるご母の
あります、お努力を續けて居り物事

私共も去る六月末私ごと阪野物事、節に四ヶ月の家を引拂そ
は舞いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

唯々お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
まもお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

頭席の程、一重の家へ帰りますと一重を西田屋、五人も居ります
一寸お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ
お逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬお逢いませぬ

